かお・人・interview

2026年10月22日

センター長インタビュー



国土交通省　九州地方整備局
九州道路メンテナンスセンター長

後川 英樹氏

SONOKAWA Hideki

開所5年目を迎えた九州道路メンテナンスセンターは、九州地方整備局の道路メンテナンスの中枢組織として、橋梁の健全性診断や点検データの管理・分析、補修等への技術的支援を担っている。一方で、道路構造物の老朽化が進む中、効率的・効果的な維持管理や技術継承が課題だ。道路メンテナンスの先導役として、安全・安心な道路を支える同センターの役割と今後の展望について後川センター長にお話を伺う。

Qセンター長就任にあたっての抱負

道路は、地域経済や物流、救急医療、日常生活を支える社会基盤であり、その機能を維持することは国民生活を守ることに直結しています。この大切な道路において、我が国では高度経済成長期に整備された橋梁やトンネル、舗装などの老朽化が急速に進行しており、道路メンテナンスの重要性はこれまで以上に高まっています。そのため、「事後保全型メンテナンス」から「予防保全型メンテナンス」への移行が急務となっています。損傷が深刻化してから対応するのではなく、点検・診断データを活用した早期発見・早期補修を徹底することで、道路施設の長寿命化を図るとともに、将来的な維持管理コストの縮減につなげることが重要です。

こうした取組を推進するため、デジタル技術や新技術等を活用した点検作業の効率化・高度化、現場職員の負担軽減と安全確保に取り組むことが重要です。また、地域との連携を大切にし、人材育成を含む地方公共団体への技術的支援や、国土技術政策総合研究所、他の整備局道路メンテナンスセンター等との連携を通じて、地域の実情に応じた維持管理体制の構築を支援してまいります。

今後も、九州道路メンテナンスセンターは、安全・安心な道路インフラを次世代へ確実に引き継ぐことを第一に、現場力と技術力を兼ね備えた道路メンテナンス技術集団として、国民及び関係者の皆様から信頼されるよう努めてまいります。

Q九州道路メンテナンスセンターの紹介

●センター開所後5年目の取組

九州道路メンテナンスセンターは、道路インフラの老朽化対策を強化するため、全国で5番目の道路メンテナンスセンターとして令和4年4月に開所しました。橋梁やトンネルの維持管理技術の向上、地方公共団体への支援で中心的な役割を担い、効率的で戦略的な道路維持管理を目指すとともに、道路メンテナンスの中枢組織、先導役、かかりつけ医のような役割を期待された組織としてスタートしました。

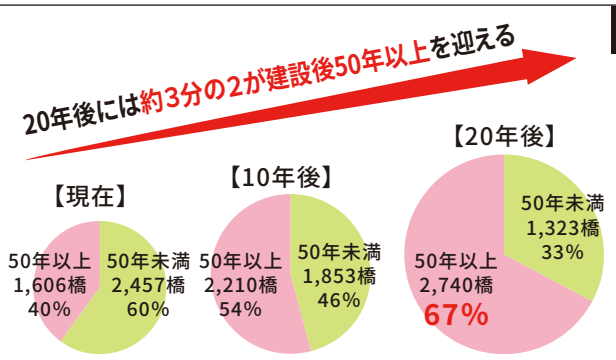
主な業務内容は、九州地方整備局が管理する直轄国道の橋梁の健全性診断、点検データの管理・分析、補修等の技術的支援、国及び地方公共団体を対象とした研修・講習会の開催等です。職員13名（事務系3名、技術系8名、期間業務職員2名）で業務に当たっています。

●橋梁の診断・データ分析

平成26年の道路法改正により、道路構造物の定期点検が義務化され、5年に1回の近接目視による点検を計画的に実施していま

図-1

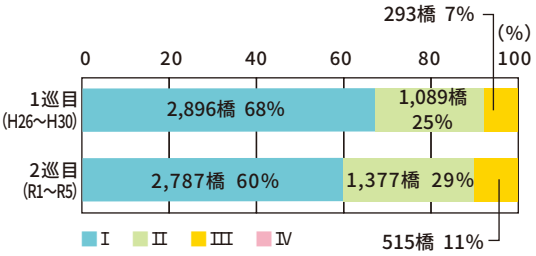
建設後50年以上の橋梁数の推移（九州地方整備局管理橋梁）



▲出典：九州地方整備局 橋梁個別施設計画（令和7年1月）[国土交通省 九州地方整備局]

図-2

健全性の診断の判定区分（九州地方整備局管理橋梁）



す。九州地方整備局が管理する約4,700橋の平均橋齢は約40年で、建設後50年以上の橋梁の割合は今後急速に増加すると考えられます（図-1）。

点検結果では、緊急に対策を要する判定区分Ⅳの橋梁はなく、約9割が判定区分Ⅰ・Ⅱであり、適切な点検・維持管理が行われています。一方、次回点検までに措置が必要な判定区分Ⅲの橋梁は全体の約1割で推移しており、その割合を減らすためには、点検データの分析に基づく効率的かつ効果的な道路橋メンテナンスサイクルの構築が重要です（図-2）。

Q地方公共団体への技術支援について

●技術相談と災害現場での技術支援

地方公共団体の道路管理者から令和7年度までに170件を超える技術相談が寄せられており、助言等を行っています（図-3）。また、地方公共団体からの災害支援要請に対し、国土技術政策総合研究所と合同で現地調査等を実施し、技術的助言を行っています（写真-1）。

図-3

技術相談数の推移と内容

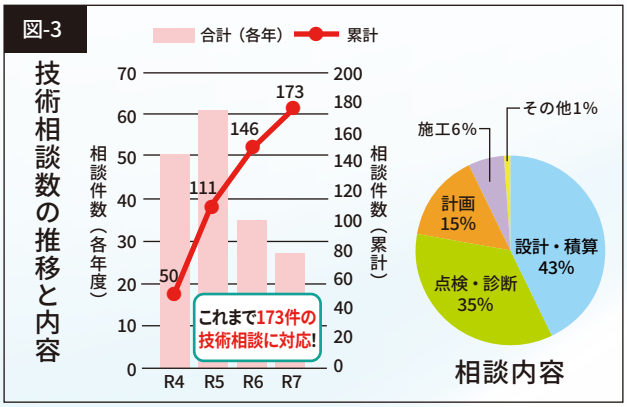


写真-1



▲一般国道386号三郎丸橋（大分県日田市）の災害現場（令和6年7月）

●各種研修や技術相談会の実施

道路構造物管理実務者研修（橋梁初級Ⅰ・Ⅱ、トンネル初級）を実施しています。九州地方整備局職員だけでなく、地方公共団体職員にも毎回多数参加いただいており、メンテナンスに関する研修ニーズの高さを再認識しています（写真-2）。



▲現地実習（橋梁初級Ⅰ）



▲橋梁実モデル（橋梁初級Ⅰ）



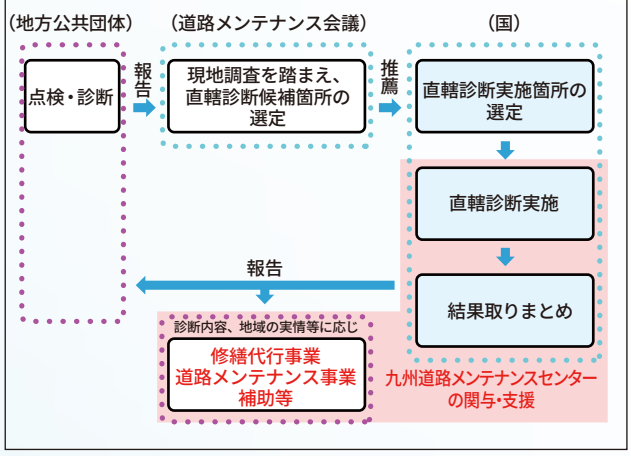


▲道路トンネル点検VRモデル（トンネル初級）

写真-2 道路構造物管理実務者研修
（橋梁初級Ⅰ・トンネル初級の研修内容の例）

各県で開催している道路メンテナンス会議にも参加し、メンテナンスに関する課題や橋梁の症例等について技術的助言を行うとともに、講習会等を実施しています。また、現場に直接伺い技術相談に対応する「出張！なんでも相談会」も開催しています。これまで、令和5年3月の佐賀県鹿島市をはじめ、福岡県北九州市、鹿児島県南さつま市、長崎県長崎市で開催し、直近では令和7年8月に長崎県佐世保市で開催しています。

図-4 直轄診断・修繕代行の流れ



▲出典：国土交通省　社会資本の老朽化対策情報ポータルサイトを基に作成

●直轄診断・修繕代行

国土交通省では、地方公共団体への支援として、要請に基づき、緊急的かつ高度な技術力を要する施設を対象に、平成26年度から直轄診断を実施しています。地方整備局、国土技術政策総合研究所、国立研究開発法人土木研究所の職員で構成する「道路メンテナンス技術集団」を派遣し、診断等を行うとともに、技術的助言を行っています（図-4）。

九州地方整備局における修繕代行事業（橋梁）は、呼子大橋（佐賀県唐津市）、天大橋（鹿児島県薩摩川内市）、樋島大橋（熊本県上天草市）の3事例があります。

Q地方公共団体との連携・協働について

令和6年3月に九州内の地方公共団体（305県市町村）に対して道路橋のメンテナンスの課題等に関するアンケートを実施しました。その回答では、「定期点検」、「点検支援技術」、「設計」、「施工（補修・補強）」、「維持管理」といった技術的な内容や、「予算」、「積算」といった行政事務に関する内容でした。その中の「定期点検」について、「石橋の健全性の診断に関する要領等がない」とのご意見があり、「道路橋石橋の定期点検に関する参考資料」、「道路橋石橋の損傷事例集［石造アーチ橋・石桁橋］の策定に取り組んできました(写真-3・4)。

急速に老朽化する地方公共団体が管理する道路構造物についての課題は、国が抱える課題と共通なものだけでなく、維持管理費不足、技術者不足、点検対象の構造物が多いなど、地方公共団体特有の課題もあると思います。それらの課題についても解決できるように技術相談の対応や支援策の検討など、寄り添いながら取り組んでいきたいと考えています。

写真-3



▲道路橋石橋の現地調査

写真-4



▲道路橋石橋の委員会

Q趣味や健康法について

若い頃は野球が好きで、観るのもプレーするのも楽しんでいました。今は健康管理とリフレッシュを兼ねて、30年以上続けているゴルフで汗をかいています。最近ではデジタル技術を活用したインドアゴルフで、自分のフォームを確認でき、プレースタイルも見直す良い機会になりました。一方で、アウトドアのゴルフでは山の中にあるコースが好きで、緑に囲まれた景色を眺めながら、仲間とラウンドする時間を大切にしています。

プロフィール



長崎県生まれ、58歳。
H３年４月　建設省 九州地方建設局
　　筑後川工事事務所（当時） 入省
H26年4月　九州地方整備局 長崎河川国道事務所
　　工務課長
H31年4月　宮崎県 都城市 土木部長
R4年 4月　九州地方整備局 道路部 地域道路課長
R5年 4月　同　道路部 道路工事課長
R7年 4月　同　企画部 技術管理課長
R8年 4月　現職